

○登場人物

プロローグ 唯とファルナ	3
第一話 恋より先に性を味わわれた守護天使	11
第二話 少女戦士颯り	40
第三話 こじ開けられた心と身体	90
第四話 触手遊戯	149
第五話 守護天使よ永遠に	202
エピローグ 堕ちた少女戦士 ～性奴隷ベット～	240

守護天使
ファルナ

ほむら ゆい
穂村 唯

身長のわりに大きな胸とおし
りで、同級生に密かな人気の唯。
妖魔と戦うファルナへと変身す
るが、上級妖魔アシモフの罠で、
その力を淫らな行為に利用され、
自ら触手を求めるように…。



紅蓮の**ファルナ**
守護天使
～淫獣の刻印～

夜空野ねこ

画・とろろ

原作・ParthenonZERO

「んあ……ふむうう……ズルイわよ、こつ、こんなの……ふあ、んんんっ!」
喘ぐファルナの口元に、ウネウネとした触手の先端が突きつけられる。

突きつけられた触手の先端は、勃起したペニスそのものの形をしていた。
(うう、気持ち悪い。何だか変な形、目のない蛇みたい……)

本能的な嫌悪感に襲われて顔を背ける。しかし、触手は口元にピッタリと追従し、おぞましい形状をした先端部で疼きに包まれた唇を嬲りにかかると。

ぬちゅ、くちゅつ、ぬち、ぬちゅ、ぬちゅつ……

口元に突きつけられたペニス型触手がわずかに前進し、亀頭そっくりな先端部がふつくとした桜色の唇に擦り付けられる。

それから何とか逃れようとするも、しつかりと触手に拘束されてしまった身には不可能なことであった。

「んくうう! ふあ、やああ……んっ、あふ……んんんっ……」

嫌悪に顔を歪めるも、それと同時に嬲られている唇から異様な快感がこみ上げてきて、思わず鼻にかかった恥ずかしい声を漏らしてしまう。

口の中に湧き出してきた大量の唾液を、ゴクリ、と音を立てて呑み込んだだけで、触手に縛められた身体が震えるほどの快感が襲ってきてしまうのだ。

(ダ、ダメ、お口、擦られると、頭の中、グチャグチャになっちゃう……)

飲みきれぬ唾液を唇の端から滴らせてしまいがち、こみ上げる快感に正義の変身少女は陥落寸前になってしまった。

クリトリス並みの快感と言われてもピンと来なかったが、張り詰めた亀頭に唇を擦られるたびに、目の前に白い快感の火花が散り、頭の芯が甘く痺れるのを感じると、その言葉が誇張ではないと思ひ知らされてしまう。

「その疼き、放っておくと、どんどん強くなってゆくぞ?」

聞き捨てならない言葉に、ファルナはハッ!と目を見開いた。これ以上こんな快楽に苛まれたら頭がおかしくなってしまう。

「ぶあ、ど、どうすれば? んんんんっ! はああ……っ」

ほんの少し、口を開いただけで、まるでヴァギナを自ら開閉したかのような鮮烈な快感が湧き起こって、ボーイッシュな顔をだらしなく蕩けさせてしまう。

半開きになって喘ぐ唇から、唾液がトロトロと垂れ落ち、口の前でくねっているペニス触手を濡らした。

「お前のその可愛い口で、チンポ触手に奉仕するのだ。上手におしゃぶりできたら、疼きを消して解放してやろう」

アシモフの邪悪な提案に、ファルナの顔が引きつる。

「しっ、信じられないわ、そんなこと! ふあう……んんんっ!」

「気丈に言い返すも、ひととき強い快感の火花が唇で弾け、触手で緊縛された肢体をプルブルと震わせてしまう。

（ダメ、これ以上は……変になっちゃう。やるしか……ないわ）

羞恥と屈辱に耐えながら、ペニス型触手に向かっておずおずと舌を伸ばす。普段なら考えられない行動だが、脳に近い唇の快感がファルナから思考能力を奪っているのだ。

「んっ、んふ……びちゅ……ううう……」

粘液にぬめった亀頭に触れた舌尖から、生温かい体温と、イカ臭い生々しい粘液の味が伝わってきて、ファルナは顔を泣きそうに歪めさせた。

なんてひどい臭いのだろう。

「どうした？ 続ける。もつと舌を突き出して、亀頭をくまなく舐め回すんだ！」

「んんっ、こ、こんなの、恥ずかしい……んっ、びちゅびちゅびちゅ……ちゅびっ」

羞恥と屈辱と生臭さで泣きそうになりながらも、ファルナは赤黒い亀頭に舌を這わせて奉仕を続けていた。

こうして舌を這わせていると、いくらか唇の疼きが治まるのは確かなのだ。

（へ、変な味……ヌルヌルで、熱くつて、気持ち悪い……こんなの、嫌なのに……舐めていると……頭がボーッとして来ちゃう……）

無意識のうちに、目一杯突き出した舌尖で張り詰めた先端部をチロチロと舐め弾き、大

きく張り出したカリのくびれをなぞるように舌を這わせる。

「おやおや、随分フェラチオが上手いじゃないか。さては、初めてではないな？」

「なっ！ 初めてよっ！ こっ、こんなの！」

夢中で舐めていた触手ペニスからあわてて口を離し、顔を真っ赤にして反論する。

「嘘をつくんじゃない！ クラスの男子や、教師のチンポを、その可愛いお口でしゃぶっているんだろっ？」

「しっ、してないもんっ！」

こみ上げてくる疼きを堪えて言い返すファルナであったが、その脳内には、クラスの男子生徒達にフェラチオ奉仕している自分の痴態が、異様な生々しさで浮かび上がっている。

「じゃあ、お前の淫乱な口をオマンコ代わりに犯しながら、じっくり教えてやろう」



ぐちゅっ！と、ファルナの口に触手ペニスがさらに奥まで突き入れられる。

「んぐう！ んんんんんっ！」

口腔いっぱい生臭い肉柱を頬張られて、目を白黒させて呻く。

（ダメ！ お口、そんなに荒っぽくされたら……）

ぬちゅ、ずちゅ、ずちゅ、ずちゅ、ぐちゅっ、ぐちゅ、じゅぼ、じゅぼ、じゅぼっ！
O字型に開口を強要された唇をまくれ返らせながら、激しいイラマチオ挿入が始まる。

「んんんんっ!! くふうううううっ!!」

クリトリス並みの感度になっている朱唇を容赦なく擦られたファルナは、意識が吹き飛びそうな快感の大波に襲われて全身をガクガクと痙攣させた。

「おやおや、随分気持ちよさそうじゃないか、こうやって口マンコを犯されて、実は悦んでいるんだろう？」

「はう……んっ、ゴホッ、んぐ……はう……きゅふうううん……」

嘲りの声に反論することもできず、ファルナは触手フェラの快感に翻弄される。

（私、犯されてる……お口……触手に……いやらしい形した触手で……ダメ、どうして、気持ちいいの？ 融けちゃう……お口で……イっちゃう……）

性的なことには奥手で、ソフトタッチのオナニーしかしたことのないファルナであったが、このまま口を犯され続けられ「イク」という状態にまで追い込まれてしまうことは、

容易に想像できた。

大きく張り出した亀頭冠が口腔粘膜を掻き擦り、熱く張り詰めた肉茎が唇をまくり上からせてピストンするたびに、目の前が快楽で歪んでゆく。

ぐちゅ……ちゅぽんっ。

変身少女の理性をグチャグチャに掻き乱した触手ペニスが、一旦、口から引き抜かれる。

「さあ、最後のご奉仕は、お前自身の舌ですのだ」

口を犯される快感で痺れた頭の中に、アシモフの声が響く。

「……ふあ、あふ、びちゅ、ちゅくちゅくちゅく、んはあ、あむ……ちゅるっ、びちゅびちゅびちゅ、はああう……くちゅるっ……」

表情を蕩けさせたファルナは、迷うことなく舌を這わせて触手チンポを愛撫し始めた。鼻にかかった甘い息を漏らしながら、夢心地で奉仕する。もう理性などほとんど残っていない。今はもう、目の前の触手を舐めて、イッてしまいたい思いでいっぱいだった。

「ふふふ……ファルナ、お前が今、舐めているのは何だ？」

「んあ……ち、チンポ……お、男の人のオチンチン……ちゅばちゅばちゅば……びちゅうわごとのように漏らしながら、亀頭を舐め続ける。」

意識の片隅ではとんでもないことをしているという認識はあるのだが、刻印針の魔力で発情した唇と舌が、淫らな動きを止めてくれないのだ。

「ようし、そろそろフィニッシュといこうか。妖魔のチンポ汁、その可愛い顔で受け止めるがいい！」

ファルナの舌に可愛がられている亀頭触手が、ビクビクと切羽詰まった痙攣を始めた。「ふぁ、で、出る……の？ あぁぁ……」

泣きそうな声を上げたファルナが目を開けると、ひととき激しく胸震いした触手ペニスが射精を開始するのはほぼ同時だった。

びゅううつ！ びゅくつ、びゅくつ、ぶじゅるるるつ！ びしゃつ、びちゃぁあ！
「んっ！ ふぁ、あつい……っ！ んぷうううう！」

紅潮した変身少女の顔に、大量にかけられる熱い白濁粘液。

ファルナは避けることもせずに、されるがまま顔面射精を受け入れる。

（私……オチンチン触手にフェラチオして……射精させちゃった。触手セーエキ、かけられちゃった……）

「ククク……今日の調教はここまでにしといてやろう。明日を楽しみにしているのだな、ファルナよ！」

生臭いスペルマシャワーを浴びながら、ファルナは激しい後悔と同時に妖しい悦びを感じて意識を遠のかせていった。



ぶちばら文庫

紅蓮の守護天使ファルナ

～淫獣の刻印～

2011年 5月30日 初版第1刷 発行

■著 者 夜空野ねこ
■イラスト ころろ
■原 作 Parthenon ZERO

発行人：久保田裕
発行元：株式会社パラダイム
〒166-0011
東京都杉並区梅里2-40-19
ワールドビル202
TEL 03-5306-6921

印刷所：中央精版印刷株式会社

本書の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などを行うことは、
かたくお断りいたします。

落丁・乱丁はお取り替えいたします。

定価はカバーに表示してあります。

©NEKO YOZORANO ©Parthenon ZERO

Printed in Japan 2011

PP018

ぶちばら文庫17

沖田和彦 著

熊虎たつみ 画

Parthenon 原作

定価 670円(税込)

珊ちゃんはある伝説の十二天使の
生まれ変わりなんですっ!!

妹の誕生日に現れた天使コエルは、そう
言って珊を天界へ連れて行こうとした。
唯一の家族を失うわけにもいかず、護は
謎の神父の言葉を信じることにする。そ
れは、珊のお腹に新しい命を宿せば、連
れ去られずにすむというもので…。



妹天使は、
赤ちゃん作らないと昇天しちゃうよ!

妹天使は、
赤ちゃん作らないと昇天しちゃうよ!



いもつと ばら
妹★乳まぜつくす

描き下ろしカットも
新たに収録!

好評発売中

ぷちぱら文庫は ライター&イラストレーターを募集中です!

「ぷちぱら文庫」シリーズを盛り上げる、新たな作家を募集いたします。「ぷちぱら文庫」は、ゲームノベライズだけでなく、オリジナル創作による美少女小説も刊行予定です。

応募規定は、それぞれ以下ようになります。

皆様のご応募をお待ちしております!

1. 募集内容

「ぷちぱら文庫」シリーズでは、美少女ゲームやライトノベルを好む読者層へ向けた作品作りを目指しています。ご応募いただく場合も、ヒロインの個性や魅力が伝わるようなもの、シチュエーションへのこだわりが感じられるものなど、はっきりしたテーマのある作品でお願いいたします。題材はとくに限定していません。発表済か、未発表作品かも問いません。

2. 送付方法

小説の場合は、テキストデータをメールでご応募ください。コミックやイラストは、原稿用紙をお送りいただいても、データをお送りいただいても結構です。データが5MB以上の場合は、ファイル転送サービスなどをご利用ください。コミックには枚数の規定はありません。小説は1ページを17行×40文字として、50ページ以上の作品をお送りください。

3. 選考結果などについて

メールでご応募いただいた場合は、着信のご連絡は必ず行っています。選考は随時行っており、締め切りはとくにございません。選考終了後、採用の方へのみ別途お返事をしております。通常はお返事までに、2週間～1か月ほどお時間がかかります。

4. 作品の送付先

ご郵送の場合は下記住所までお送りください。メールでのご応募は以下のアドレスで受け付けております。どちらの場合も必ず「お名前、年齢、ご職業、ご住所、電話番号」を書いた紙を同封するか、明記してください。
メールの宛先: desk@parabook.co.jp

〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-19 ワールドビル202
株式会社パラダイム 「ぷちぱら文庫作品応募」係

※ご応募の際の個人情報、選考結果のご連絡にのみ使用いたします。

作品のご返却を希望の場合は、宛名を書いた返信用封筒と切手を同封してください。